

### 楽しいお金の使い方

年のはじめからお金で恐縮ですが、巷には、お金に関する情報がいたるところにあふれています。貯蓄・投資・株・金利・為替・証券・銀行・借金・ベンチャービジネス・給料・賞与・新しいショップ・ブランド品・学費・コンビニでの買物、バス代金、お年玉そしてNPOであれば寄付金・活動費等々。朝起きて夜寝るまでの間にお金に関する情報に一切ふれずに生活することが困難なくらい、お金に関する情報は身近なものです。

自給自足で生きているごく少数の人を除く、大多数の人は何らかの形でお金を得てそれを使います。勤労による収入・事業による売上・投資による回収と利益・親からの援助・相続贈与による収入等、収入を得る方法は様々です。

『お金は大事だヨ〜』というCMもありますが、せっかく得たお金を楽しく使うための要件を考えてみました。

- ①最低限の生活維持のためではないこと：生命維持のための最低限必要なものが満たされるまでは楽しい支出にはならないと思います。
- ②欲しいと思った物またはサービスが得られること：何が自分にまたは家族に必要なものかを考えることが大切だと思います。
- ③支出以上の対価を感じることで：いくら素敵な物・サービスでも対価以上の値段では楽しくありません。
- ④効果が持続すること：記憶に残る使い方をしたいものです。
- ⑤支出が義務ではないこと：税金等は必要とわかっていても楽しい支出とは思えません。義理で支出する時も楽しいとはいえません。
- ⑥自分で決定できること：自分で考えて、自分が行動することです。
- ⑦収入の範囲であること：借金は好きではありません。

①〜⑦は私の独断ですが、皆さんはどのようにお考えでしょうか。どうぞお金は楽しく使いましょう。また、それぞれの立場で、「お金を楽しく使わせる」物・サービスの提供を考えてください。

せんだい・みやぎNPOセンター 監事 沼倉 雅枝

### 内 容

新スタッフの10ヶ月、せんだいCARES報告  
CB開発講座報告、センドードサロン報告、  
らくだのブックブック、BOOK  
事務局活動報告、事業紹介

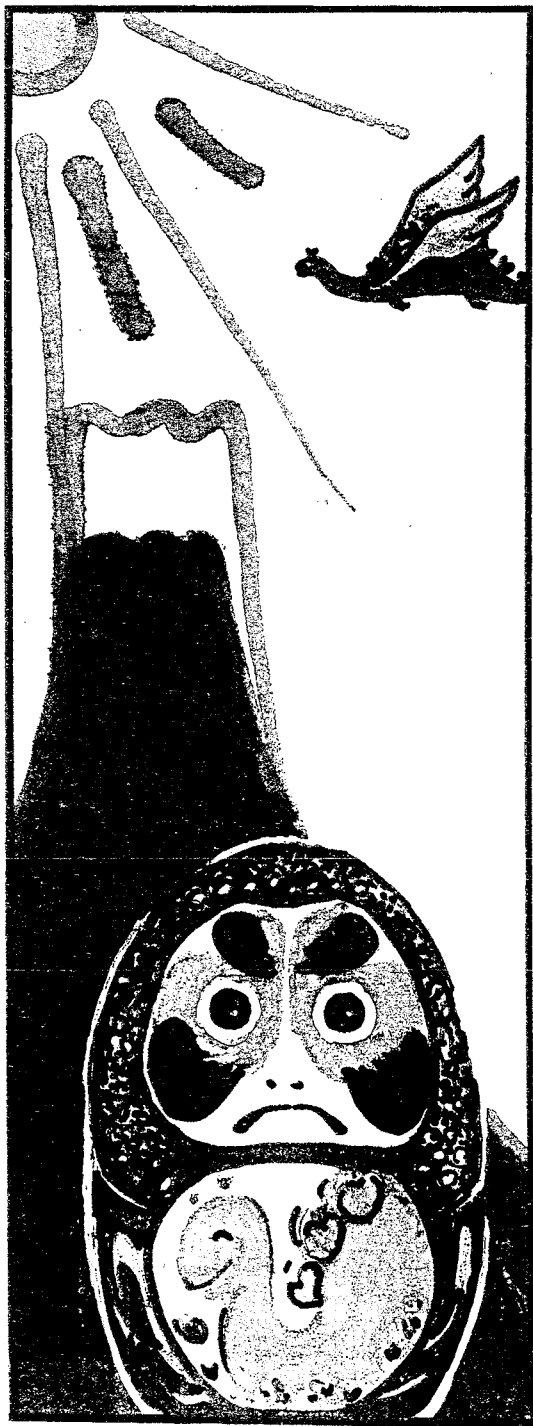


イラスト 佐藤友里

## ★ 新スタッフの10ヶ月 ★

### NPO支援の仕事で気づいたこと・感じた事

2004年春、せんだい・みやぎNPOセンターでは、スタッフの6名が旅立ち、5名が新スタッフとして仲間入りしました。当センターでは「創生期のNPOセクターを担う力強い人材を地域に供給する」というスタッフ採用の方針を掲げています。新スタッフはこの約10ヶ月、NPO支援の仕事を通じ、どのような気づきがあったのでしょうか。今回は、この中の3名と理事が「せんだい・みやぎNPOセンターで働く」ことについて語り合いました。

#### 【出席者】

黒澤 学：せんだい・みやぎNPOセンター理事  
八田 篤司・本田 ふみ・伊藤 浩子：  
仙台市市民活動サポートセンター勤務

黒澤：皆さんがせんだい・みやぎNPOセンターのスタッフとなって10ヶ月。どのような意気込みで働き始めたのか、そして実際に働いてみて気づいたこと、自分の中で変化したことは何だったのでしょうか？

#### ◆「NPOで働く」ことへの関心◆

八田：私は大学時代、学生が運営するNPOで活動していたこともあり、「NPOで働く」ということに興味がありました。NPOや市民活動にはどのような可能性があるのか、働きながら探りたいと思っていたのです。また、人と人をつなぐ、人と関わる仕事につきたいとも考えていました。実際に仙台市市民活動サポートセンター（以下、SC）で働いてみて、利用者と接することで、地域にどんな問題があるのか、そしてそれをどのように解決しようとしているのか知ることができました。活動している人たちの熱意や行動力はすごいものがあり驚かされます。人としても本当に学ぶことが多いと感じています。

#### ◆自分の思考回路が変わってきた！◆

伊藤：私の場合は、ちょうど子育てもひと段落

して、自分の力を蓄えて何かに役立てたいと思っていた時期にせんだい・みやぎNPOセンターと出会いました。NPOという言葉は知っていましたが、もっと詳しく知りたいという思いや自分の勉強の場にしたいと思って働き始めました。実際に働いてみて、まず、スタッフや活動している皆さんのパワーには驚かされました。そして今、自分の思考回路が変わってきたことに気づいています。それまではどちらかというと、結果論で物事を判断していたのですが、今は原因やプロセスを大切に考えるようになりました。そのせいか、家族に対する接し方も変わったかと、自分なりに実感しています。スキルの面でいえば、これまで経験したことのなかった講座の企画や広報の仕方など学ぶことができ、つくりあげる苦労から達成感まで体感できたことは、大きな成果でした。

#### ◆NPOが身近なことに気づく◆

本田：私も八田さんと同じく社会人一年生です。大学では起業家になるための勉強をしていたのですが、NPOについては非営利組織であるということぐらいであまり詳しく知りませんでした。身近なことではなかったのです。NPOって何だろう・どんな人たちが活動しているのだろう・その活動を知ってみたいな、という思いから始まりました。実際に働いてみてびっくりしたのは、実はとても身近なことだったことに気づいたことです。SCの仕事の中で、さまざまな分野で活動しているNPOを知るこ

とができました。SCはたくさんの情報が入ってくる場なので、NPOが何かも少しずつわかってきました。

#### ◆「NPOで働く」を改めて考えてみる◆

黒澤：それぞれ「学びと気づきの10ヶ月」だったそうですね。話を聞いていて、NPOに対する知識的興味からスタートし、そして働き、次のステップに入る時期かなと感じました。

八田さんと本田さんは初めて社会に出たわけだけど、「働くって何だろう」と考えたことがありますか。私は、まず社会の中で働くというベースがあって、そしてNPOでの働き方があるのではないかと考えています。



NPOで働くということが目的化してはいけないと思うんですね。労働者ということ言えば、企業もNPOも同じです。でも、

NPOで働くとはどういうことなのか、個々がきちんとその意味を自覚する必要があると思っています。皆さんがここで得た技術、情報、ネットワークを活用して、次にどのようなステップを目指すのか。当センターでの仕事が、皆さんの今後のキャリアデザインの中でいい学びと実践の場であって欲しいと思っています。

では、2005年もはじまりましたが、今年そして将来の目標を教えてください。

#### ◆いつかは地元を盛り上げる力になりたい！◆

本田：今年の仕事上での目標は「アレマグッズ」を開発することです。昨年アレマ隊の活動に参加したのですが、ゴミのポイ捨てが多いことを知りなんとかしたいと思っています。個人のスキルアップとしては「聞き上手・話し上手・書き上手」を目指したいです。将来的な目標で言

えば、地元の石巻を盛り上げ・面白くしていくために、石巻で「稼げる女」になりたいんです（笑）。実は、石巻には「シャッター通り」と呼ばれてしまった商店街があります。初めてこの言葉を聞いた時にすごく悔しい思いをしました。今年はなるべく地元に戻り、人々の話を聞き、石巻の魅力を発見する年にしたいです。

八田：昨年は楽天イーグルスの仙台進出が決定しましたが、SCの業務を通じてスポーツ関連の活動が活発になってきたなと感じています。今年はスポーツ関連のNPOの活動に参加し、スポーツと市民活動の可能性を探ってみたいと思っています。また、私の地元は富山県なのですが、お正月に帰省した際に支援センターに立ち寄ったのですが、SCと比べ情報が少ないことに驚きました。将来的には、富山でNPO支援ができないかと考え始めています。

#### ◆カウンターから飛び出そう！◆

伊藤：私には今、関心のある分野がいくつかありますが、どのように関わっていくべきか、まだはっきりしていない段階です。今年は情報収集しながら実際に活動に参加していきたいと思っています。SCでもさまざまな活動を知ることができますが、もっとアンテナをはりめぐらして外に出て行かなければと気づきはじめました。そして将来的には、せんだい・みやぎNPOセンターで働きながら得た情報やスキルを、地域に還元できるような活動をしていきたいと考えています。

黒澤：私たちの組織は中間支援型の組織なので、各分野について学べるという利点、幅広く情報が集まってくるという利点があります。けれどもやはり、特定の分野に入って、NPOの活動を体感するということが必要だろうと思います。そこで得たことが支援にも大きくつながっていくのです。今年は是非、受付カウンターを飛び出してフィールドで物事を考えましょう！

（小松 州子）

◆ せんだいCARES報告 ◆

**NPOと企業と行政のまちづくりが、「せんだいCARES」**

今年2回目となった「せんだいCARES」は、10月30日から36日間にわたって開催され12月4日に無事終了しました。NPOの参加数は、昨年の倍にあたる41団体、企業の協賛は33、後援23を数えました。

今年は、企業人を中心とする実行委員会で運営されましたが、その中でも最も大変だった、せんだいメディアテークでのオープニングイベントは、地の利を得て1000人を数える参加者があり大成功でした。オープニングを皮切りに、仙台のまちのソチコチでさまざまなNPOの活動が繰り広げられました。告知は、仙台市の協力を得て、市内の中心部にある公共施設5ヶ所でパンフレットを配布。また、エル・パーク仙台とのコラボレーション広報も実現することができました。パンフレットも、B5版・32ページと大きくなり読

みやすく、使いやすいものになりました。昨年から登場した、シンボルマークの赤い恐竜にも、今年は目と口がついてチャーミングな顔になりました。

フィナーレ会場では、市民メディアネットワークが編集したビデオの上映のあと、「わいがやセッション・どうする、2005 CARES!」と題して、今年参加されたNPOと実行委員による意見交換が行なわれました。「それぞれの催しに、NPOどうしが参加できると良い。」「NPOと企業の相乗り企画もあると良いのでは。」「CARESへの参加メリットについて、参加したことのあるNPOからアドバイスしてもらおうと良い」など、たくさんのご提案がありました。そこでの話から、「せんだいCARES」はNPOと企業と行政が一緒に取り組むまちづくりになってきたと、実感した1日でした。（紅邑 晶子）

当センターでは、仙台市産業振興事業団からの受託で、コミュニティビジネス（以下、CB）開発講座をさせていただいて三年目になります。こういうタイプの講座は結構難しいものです。一つには、参加者によって大きく成果、すなわち起業率が左右されることです。ある程度の準備とやる気を持った参加者をどう獲得するか、広報が大きな課題となります。二つ目の困難は、いろいろな講師やゲストによる講座を開催することは簡単ですが、それだけでは意外と効果が出ないことです。そこで二年目からは、全体を通して加藤が講師を務め、個人カウンセリング体制を充実させています。三つ目は、講座だけでは限界があるので、むしろ講座の後のフォロー体制がしっかりとっている必要があることです。ここは事業団にも提案し続けて、気軽に相談に乗っていただけるところに少しずつ形になってきているところと、今年度の参加者から実際に起業に踏み出し、新聞に取り上げられる人が何人も出るなど、ようやく成果が目に見えてきたところです。

本来ならば、NPOの事業化支援と中小企業支援のハザマを埋める意味でもCB支援は重要な施策になるのですが、講座単発ではなく、もっと面的な、持続性のある、タテ割りを超えて連動性の高い施策への展開が望まれます。

当センターとしては、そういう提案を続けていきたいと思っています。また、NPOでも、内容によっては、産業振興事業団の支援を受けることができます。まず、当センターの担当・遠藤智栄までご相談ください。（加藤 哲夫）

**報告 ● コミュニティビジネス開発講座 ●**

起業・新規事業開拓事例や新聞掲載事例も

## 報告 センター サロン

### ● 11月27日

11月のサロンは「もっと知りたいNPO!～事業報告書・決算書を見に行こう」と題し、2ヶ所の施設を訪問。そこでNPOの情報を収集して、ぜひ参加者の活動などへ活かしてもらおうと開催しました。

最初は、せんだい・みやぎNPOセンターのNPO情報ライブラリーを見学。ライブラリーの説明の後、それぞれNPO・企業などのファイルを開覧しました。次に、みやぎNPOプラザへ移動し、県職員の方から県内のNPO法人の状況や縦覧・閲覧するファイルについてお話を頂き、報告書を開覧。皆さん何冊もファイルを読んだり担当者に質問するなど、熱心に情報収集する姿が見ら

れました。最後にプラザ内の「cafe restrand Ryu」で昼食を取り、感じたことや現在の活動状況などを話し合いました。

事業報告書や決算書をどこで・どうやって見ることが出来るのかわからない人が多い中で、今回のサロンは、現在活動している人にとっては他団体の報告書から学んだり、参加者同士の交流から気づきが得られ、NPOをよく知らなかった人にとっては、それを知るきっかけになったようでした。このサロンをきっかけに、これからも情報収集から活動の幅を広げてもらえるのではないかと感じました。  
(本田 ふみ)

### ● 12月18日

12月のサロンは「認定NPO法人制度改正のための全国キャンペーン仙台場所」 知らなきヤソンソン NPO支援税制学習会 NPOへの寄付がもっともっと集まるように!と題し、松原明さん(シーズ=市民活動を支える制度をつくる会事務局長)を講師に、そしてゲストに青木豊幸さん(特定非営利活動法人日本ガーディアン・エンジェルズ仙台支部事務局長:認定NPO法人)と北尚登さん(東北労働金庫宮城県本部)を招き開催しました。今回は、その時報告された認定NPO法人の現状や最新の話題をお知らせします。

#### 認定NPO法人制度の改正は・今年が正念場

一定の要件を満たしたNPO法人に対して国税庁が認定を与え、法人と法人に寄付をした人に対して税の優遇を認める「認定NPO法人制度」は創設から早くも3年を経過しました。

制度の創設時、国会での論議の中で麻生経済財政政策担当大臣(当時)は、要件をクリアし支援を受けられる法人の割合を「半分ぐらい、1%と言う程ひどくはない」と述べていましたが、フタをあけると、認定NPO法人の数は現在でもわずかに27法人。全国約2万NPO法人の0.14%

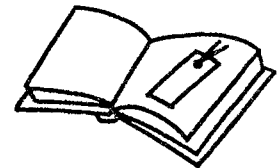
にとどまっています。

この惨状を打破すべく認定要件の改善に向けた運動が全国で進められています(その一環が本サロンです。その様子と詳しい内容は、センターHPでご覧ください)。今年は、財団法人や社団法人の法人制度を見直すための公益法人制度改革との関連で、認定NPO法人をめぐる運動も正念場となりそうです。

日本の税制度の改正は、政治色が最も強い政府与党の税制調査会(税調)で決められています。このような政治の場で制度改正を勝ち取るためには「数の力」が必要です。

「どうせ寄付なんか集まらないから」というあきらめの無関心派、「制度ができれば活用します」という日和見派のNPOが多ければ、認定NPO法人制度が画餅を脱することは出来ません。「業界団体」を見習いたくはありませんが、NPO業界の「本気」が試される1年になりそうです。

(高田 篤)



BENYのはみ出しエッセイ ◆らくだのブクブク◆ vol.13

コトバの賞味期限

常務理事・事務局長 紅邑 晶子

ことは、10年目。阪神淡路大震災から？といわれそうですが、実はわたしがNPOというコトバに出会ってから、10年目の年なのです。NPOというコトバを始めて知ったのが1995年の6月。現在、当センターの代表理事をしている大滝精一さんからでした。その直後、「NPOって知ってる？」「僕がやってることだよ」というやり取りをしたのも、同じく代表理事をしている加藤哲夫さんでした。そこで、NPOの正体を突き止めるために、「NPOのことに限って」という条件で無償でお手伝いしたいと加藤さんに申し出ました。そして、手に入れたチャンスを生かして、その年の12月には「NPOフォーラムin東北」の企画・運営に関わり、フォーラム翌日にはイギリスへNPOの支援組織についての視察する旅に参加しました。まさにこの年は、わたしにとってのNPO元年となりました。

わたしがNPOに関心を持った理由の一つ

は、「NPO」というコトバに市民活動やボランティア活動に抱いていたネガティブなイメージとはちがう、新しい時代の可能性を感じさせる、軽やかさがあったからです。あれから10年。いまでは新聞にNPOと文字のない日がないくらい、知られるコトバになりました。このコトバのおかげで、特別な(特殊な)人が活動すると思われていた市民活動やボランティア活動に多くの人たちが参加したり、活動を起こしたりするようになりました。NPOのサービスを必要とする人にもその存在を知ってもらいやすくなりました。

でも最近、あのころのイメージがNPOというコトバに感じられない気がします。(それは、NPOの法人が特定非営利活動法人と呼ばれてしまっただけのようです。)そろそろ、NPOというコトバの賞味期限を確かめる時期になったのかもしれないなあと、思うわけです。さて、次はどんなコトバが良いでしょう。

BOOK

「仙台市市民活動サポートセンター5年の軌跡」

市民協働 仙台スタイル

せんだい・みやぎNPOセンター編・発行

1000円(税込)

仙台市市民活動サポートセンターを「サポセン」と呼び、時々会議室を借り、交流サロンに寄り道してその場の人たちと言葉を交わし、気になるチラシを何枚かピックアップして、スタッフに挨拶して帰る。仙台での生活にいつの間にかそんなサイクルが組み込まれている。私もそんな利用者の一人です。でも、その「サポセン」の歴史やこれまでの進化の過程については、実はそれほど知りませんでした。本書は、それらの深い理念を優しい言葉で語りながらも、設立からの歴史を振り返る記念誌にとどまらず、今後へ向けての活動提言書とも言える良書です。

「サポセン」の歩みは、そのまま仙台市の市民協働の歴史でもあります。第一章では、市民参加から市民参画へと、上手くパラダイムシフトを進めてきた「仙台スタイル」について述べられています。日本NPOセンターの山岡氏が、市民協働を進めていく上で最も重要と言った「多様な価値観の存在を認め合いながら、新しい社会を共に作っていく覚悟」が、「サポセン」でどう実現されてきたのかがとてもよくわかります。

第二章は、「サポセン」の指定管理者であるせんだい・みやぎNPOセンターの加藤代表理事と藤井仙台市長との対談や、五周年記念フォーラムの紙上再現で構成され、その他にも随所に見られる利用者のコメント等、現場の声に耳を傾けながら進んできた姿勢がここにも表れています。

現在NPOで活動している方も、NPOを必要としている方も、入り口を探してうろつろしている方にも、他人事を「自分事」にするための必読書です。

(当センター理事 田代久美)

活動  
報告

## 事務局活動報告

(2004.10.21~12.20)

## ■事務局/自主事業関連

- ・事業・企画戦略会議 (10/21・11/19・12/16)
- ・五城ライオンズクラブ40周年記念式典 (10/24)
- ・センター会議 (10/27・11/24)
- ・せんだいCARESオープニング/フィナーレ (10/30・12/4)
- ・ふくふくファンド・みんなファンド贈呈式 (10/30)
- ・事業・運営会議 (第93回: 10/28 第94回: 11/8 第95回: 11/29 第96回: 12/14)
- ・物品提供内覧会/「東京海上日動火災保険 (11/7)」 「JT (11/26)」
- ・仙台市市民活動サポートセンター全体ミーティング (11/10・17・12/1・8・15)
- ・サポート資源提供システム運営委員会 (11/11)
- ・理事会 (第66回: 11/19 第67回: 12/20)
- ・すこやか子育てプラングループヒアリング (11/15・22)
- ・市民の提案力向上セミナー「権利を知らない」「制度を知らない」「調べられない」 (11/25・12/2・9・16)
- ・センドードサロン「もっと知りたいNPO! ~事業報告書・決算書を見に行こう~」「認定NPO法人制度改正のための全国キャンペーン仙台場所~NPOへの寄付がもっともっと集まるように!」 (11/27・12/18 遠藤・佐藤・本田・高田・能藤)
- ・スタッフ面談 (12/6・13)

## ■NPO/企業関連

- ・NPO・自治会マネジメント講座/主催: (特) いわてNPO-NETサポート (10/23・11/7・14・12/5 加藤)
- ・自由民主党NPOタウンミーティング/主催: 自由民主党 (10/24 加藤)
- ・NPOキャパシティビルディング研究会 (10/25・26 紅邑)
- ・平塚みんなで集まるなるほどフォーラム「市民活動はおもしろい!」/主催: (特) みんなでつくる平塚 (11/6 加藤)
- ・東北放送番組審議会 (11/12 紅邑)
- ・秋田ALIVEナイトリーセッション2004「ここから生まれる新しい共創の風」/主催: 秋田市民交流プラザ管理室 (11/13 青木)
- ・SSCSインターンシップ中間研修会/主催: (特) 市民社会創造ファンド (11/14 紅邑)
- ・全国子どもこみシンポジウム2004/主催: (社) 全国青年の家協議会 (11/16 紅邑)
- ・認定NPO法人制度改正を求める東京決起集会 (11/17 紅邑)
- ・東久留米まちづくり学習会/主催: (株) ソシオエンジン・アソシエイツ (11/30 加藤)
- ・コミュニティ再生研究会/主催: 東北開発研究センター (12/6 加藤)
- ・新しい日本をつくる国民会議「生活者起点推進会議」 (12/15 加藤)

## ■自治体関連

- ・いわき市職員研修「市民と市職員との交流研修」/主催: いわき市 (10/21・22 加藤)
- ・仙台市社会教育委員の会議 (10/21・11/9 紅邑)
- ・仙台市図書館ボランティアスキルアップ講座 (10/22 遠藤)
- ・仙台市市民活動サポートセンター市民起業家スクール「起業プラン作成編」「訪問編」「交流・相談編」/人材育成「NPOいるは塾」 (10/22・28・11/13・25・12/1・14)
- ・東北六県行政課題研修「NPOその本質と可能性について」/主催: 東北自治研修所 (10/25・26・27 加藤)
- ・コミュニティビジネス開発講座・カウンセリング/主催: (財) 仙台市産業振興事業団 (10/28・11/4・24・25・26 加藤・遠藤)
- ・職員研修「市民協働・NPO基礎講座」/主催: 仙台市職員研修所 (11/2 加藤)
- ・宮城県NPOマネジメント実践講座2004「NPO法人の会計と税務」 「成果を導く事業計画と資金調達」/主催: 宮城県 (11/3・6・7・20・21・23 加藤・遠藤・渡辺)

- ・柴田町住民自治基本条例検討委員会 (11/6・30 紅邑)
- ・住民協働ワークショップ/主催: (財) ふくしま自治研修センター (11/9・12/7・14 加藤)
- ・協働推進ワーキンググループ・協働フォーラム「実践で作る仙台スタイルへのステップ」/主催: 仙台市市民局 (11/10・27 加藤・紅邑)
- ・政令都市部第2回業務交流会~協働とネットワークを生かした地域づくりに向けて~「連携・協働を生み育てる」/主催: 宮城県保健師連絡協議会 (11/10 加藤)
- ・行政とNPOとの協働にかかわる地域フォーラム「NPOってなあに?なぜいま「協働」なの?」「参加と協働の時代をひらく」/主催: 秋田県 (11/12・13 加藤)
- ・置賜地域づくりフォーラム/主催: 山形県置賜総合支庁 (11/13 紅邑)
- ・アレマ会議/主催: 仙台市環境局 (11/15 加藤・紅邑)
- ・クリーン仙台推進員グループ学習会/主催: 仙台市環境局 (11/16・12/2 加藤)
- ・みやぎボランティア総合センター運営委員会 (11/16 遠藤)
- ・まちづくり研修会「自立したまちづくりのために...住民・行政の役割、NPOの可能性」/主催: 宮城県気仙沼地方振興事務所 (11/17 加藤)
- ・杜の都の市民環境教育・学習推進会議 (11/18 遠藤)
- ・石巻市役所職員対象セミナー「NPOと行政の協働について」/主催: (特) いしのまきNPOセンター (11/18 紅邑)
- ・やまもとわたり田園空間博物館リーダー養成講座「NPO法人設立に向けて」/主催: 山元町 野外ぐるりん友の会 (11/18 加藤)
- ・矢本町住民向け講演会「生き残る住民活動団体」/主催: (特) いしのまきNPOセンター (11/18 紅邑)
- ・地球環境市民大学校「組織マネジメント講座 in 名古屋」/主催: (独) 環境再生保全機構地球環境基金 (11/20 紅邑)
- ・「仙台シテールスサポーターの会」設立会 (11/22 紅邑)
- ・宮城県民間非営利活動促進委員会 (11/22 加藤)
- ・亀山市職員研修/主催: 亀山市 (11/29 加藤)
- ・仙台市健康福祉局指定管理者選定委員会/主催: 仙台市健康福祉局 (11/29・12/17 紅邑)
- ・東久留米市 (11/30 加藤)
- ・仙台市青葉区まちづくり活動助成事業評価委員会 (12/1 紅邑)
- ・富谷町社会福祉協議会法人化20周年記念福祉大会記念講演「これからの地域福祉について」/主催: 富谷町社会福祉協議会 (12/4 加藤)
- ・みやぎ青年育成推進事業「みやぎ地球市民すくすく計画2004」市民プロデューサー養成講座/主催: 宮城県環境生活部 (12/4 紅邑・佐藤)
- ・職員研修「NPOとのパートナーシップ」/主催: 秋田県自治研修所 (12/9・10 加藤)
- ・地球環境基金地球環境市民大学校組織マネジメント講座「聞くは一時・効果は一生!」/主催: (独) 環境再生保全機構地球環境基金 (12/11・12 加藤・遠藤・小松)
- ・地球環境市民大学校・環境NGOと市民の集い「あらたな連携のかたちを見つけよう! 環境NGO・企業のパートナーシップ」/主催: (独) 環境再生保全機構地球環境基金 (12/15 加藤)
- ・みやぎの活き活き地域づくり研修会「地域ビジョンづくりの実際」/主催: 宮城県 (12/17 青木・遠藤)
- ・宮城県遊休施設等の有効利用によるNPOの拠点づくり事業運営委員会 (12/18 青木)
- ・NPO講座「事業で勝負をしているか! ~自主事業の確立をめざして~」/主催: 那覇市NPO活動支援センター (12/18・19 加藤)
- ・起業家育成・支援事業(アクティブシニア・ビジネス部門) 認定検討会幹事会/主催: 宮城県産業人材育成課 (12/20 紅邑)

## ■相談、ヒアリング関連

- ・経営相談 (11/22 加藤)
- ・ヒアリング: 自治体職員有志の会 (11/6 加藤)

## サポート・ご協力 ありがとうございます

### ●平成16年度会員 (敬称略・順不同、2004年10月22日～12月20日)

(新規会員)

青木孝弘、楠善博、田口雄一、伏見剛、宮内泰介

(継続・正会員)

(特) パートナーシップ・サポートセンター、仙台生ごみリサイクルネットワーク、高清水ソフトウェアカンパニー、遊佐美由紀、渡邊兼光

(継続・準会員)

上野和弘、葛西淳子、片平たてもの應援團、木須八重子、木村美保子、齊藤衣代、佐藤照子、須藤達也、東洋ゴム工業、中村祥子、畠山未津留、槇ひさ恵、三浦隆弘

### ●企業・団体協力 (五十音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて) 富士ゼロックス(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

#### ◆センダードサロン

活動はじめは交流会から

【センダード新年交流会2005】

日程：1月19日(水) 19～21時

会場：仙台市市民活動サポートセンター

参加費：500円+1品持ち寄り・食べ物または飲み物など

楽しい企画と個性的な面々に会いに来て下さい！

事業・講座紹介

#### ◆地球環境基金 地球環境市民大学校 主催

【協働コーディネーター養成講座】

日程：1月22日(土)～23日(日)

会場：仙台市戦災復興記念館4階第1会議室

協働事例：レインボープラン推進協議会と長井市、ひろさき環境パートナーシップ21と弘前市、(株)一ノ蔵と環境保全米ネットワーク ※当センターで申込受付中。

もうすぐ 仙台市市民活動サポートセンターの

市民活動カラフルフェスタ2005

2月5日(土)～6日(日)

阪神・淡路大震災あれから10年～仙台の市民活動これまでとこれから～  
今年のカラフェスも興味深い企画が盛りだくさんです！ ◇災害発生！その時、NPOはどう動く？ ◇地域を元気にするスポーツビジネスと市民活動の関わり  
◇ボランティア大相談会、など。詳しくはSCまで。(電話022-212-3010)

Eメールを  
お知らせ下さい

当センターでは、会員の皆さんへのサービスとして、Eメールによる情報提供を実施しております。Eメールを送受信できる環境にある会員の方々と、まだメールアドレスを事務局にお伝えいただけていない方は、ぜひご連絡下さい。minmin@minmin.org

### せんだい・みやぎNPOセンター

〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F

tel 022-264-1281 fax 022-264-1209

E-mail minmin@minmin.org

http://www.minmin.org/

会費・寄付はこちらにどうぞ！

郵便振替：02260-3-16325

加入者：せんだい・みやぎNPOセンター

■岡元ビル4F 仙台駅から徒歩15～20分



### みんな編集後記

■年末、大掃除はできないけれど、自分の机まわりの小掃除ぐらいを目標にしていたのに、挫折した。3日くらい仕事を入れずに「集中お片づけ日」を作ることが、次なる目標。その後は、温泉！（紅邑）

■スマトラ沖地震の復興に向けてさまざまな形での支援が始まりました。発生後わずか2日目で現地へ出向いたNGOの行動力、各国が次々と表明する何十億という単位での支援。私たちひとりひとりほどのような支援をすべきか、できるのか。こうした災害の度に考えさせられます。（小松）

■今回の特集の座談会はおもしろかった。普段は聞けなかった各自の思いや気づき、将来の夢を聞いてホント「応援するよ！」と思う。理事の黒澤さんも紙面には書ききれないイイ話を披露していただき感謝！感謝！おっと、自分のこともしっかりやらねば！健康第一でいこう！（遠藤ち）